

## E36 紅葉の弥彦に集う

期 日 平成26年10月21日 ~ 22日

場 所 弥彦温泉 四季の宿 みのや

21名の出席を得て、弥彦温泉「みのや」でE36の同級会が二年ぶりに開催された。

在郷幹事の熟慮の計画により、初日の21日は、弥彦連山の最北、角田山(標高 481.7 m)の登山グループと、長岡から湯宿に直行するグループのふた手に別れ、それぞれ16時頃までに宿着を目指した。登山グループは、保科幹事にエスコートされた常連7名の健脚者、程よい天候の中、難なく山頂を制覇して下山、16時過ぎには直行グループ共々宿に集結し、互いに抱き合って再会の喜びを交した。

一風呂浴び、髪を整えて記念撮影、18時には高山、結城両幹事の案内で宴席に着いた。宴に先立ち、勝沼君の前唱により校歌斉唱、物故者6名への黙祷、続いて紅一点、平沢さんの乾杯の発声で酒宴がスタートした。人一倍元気で、ユーモア抜群の川村君が、終始宴会を盛り上げ、たちまち無礼講となった。恒例になった川柳の応募作は、最優秀賞に小幡君、僅差で結城、石黒、長谷川君の3名が佳作に選ばれ、それぞれ豪華賞品が渡された。延々三時間にわたる宴の最後は、いつも遠い熊本から必ず参加している廣井君音頭の万歳三唱で締められ、別席へとなだれ込んだ。

平沢さんからは、出雲崎が生んだ良寛禅師揮毫の『天上大風』を染め抜いた記念品を全員に心遣い頂き、ただただ感謝。その平沢さんは、残念ながら一次会で退席、別れを惜しんだ。

その後もカラオケ主体の二次会、日付が変わるころから各部屋で三次会、四次会と、空が白むのも忘れて、思いっきり飲み、喋りまくったことは言うに及ばない。

翌、22日は観光ガイドを伴い、傘を差しながら越後一ノ宮本殿を参拝、随神門で記念撮影、宝物殿等、境内を巡った。京都から、急遽、足をかばいながらも参加してくれた佐々木君とは、再会を誓ってここで別れ、一行は寺泊アメ横に立ち寄り、買い物・試食のあと、長岡駅の昼食会場に移動した。

更なる詳細は筆舌に尽くしがたいが、級友もそろそろ70有余年の人生の重みに耐えかねはじめたこと、また、家族や近親者の都合により、止む無く参加を見送らざるを得なかったこと等、この同級会にも少なからず老齢化の波が迫っていることは否めない。

ともあれ、同級会に参加できたことへの健康と喜びに感謝しつつ、家族共々の健康年齢の維持継続を期待してやまない。

次回開催は、川村君を代表とする首都圏在住者に計画を託し、在郷幹事団に感謝しつつ、名残り尽きることのない同級会を散会した。

電気昭和36年卒 平賀芳三 記

